て，乗客および停車駅において郵便物投函の便をはかると共に，郵便物の速達を期している。

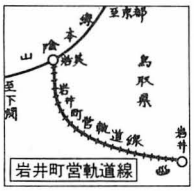
沿線の名勝にはつぎの地があげられる。

龍泉窟(鐘乳洞)　岩泉町の背後にそびえている宇霊羅山の中腹にあり，昭和13年故脇水鉄五郎博士がこれを究めた結果，天然記念物に指定された。日本有数の規模を誇る大鐘乳洞で，現在洞口から80mの地点までは電灯設備がある。

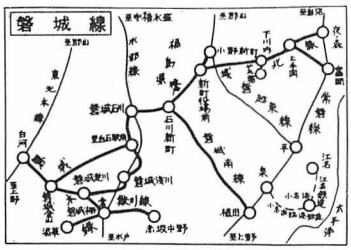
赤　穴　切り立った全山大理石からなるカケ山の山頂に近い山腹にある深さ100m，白あの殿堂を思わせるような洞窟で，洞内には獣や魚等の骨，貝殻等があり，また火を焚いた跡等から，先住民族の穴居の跡と称されている。

小本海岸(三陸フィヨルド)　小本海岸から南へ広田湾に至る海岸は，強大な波浪の作用によって，壮大な海洋浸蝕が発達して，規模の大きな段丘海岸が連なり，100m前後の断がいが直立して雄大な風景を呈している。これらの海岸線を一名三陸フィヨルドと称している。この付近の下閉伊岩は地質学上，世界的に有名である。(福田幸市)

いわいちょうえいきどう　岩井町営軌道　所在地　鳥取県岩美郡岩井町，資本金10万円，軌道線　岩美・岩井温泉間3.4km，動力ガソリン，軌間0.762m，大正10・11・30特許，同15・1・20運輸開始，旅客・貨物輸送を目的とする。昭和19・1・11より戦時中の企業整備のため休止中。(原　功)



いわきせん　磐城線　福島県白河市と同県東白川郡棚倉町・同県石川郡石川町・同県石城郡植田町等を結ぶ国鉄自動車路線。所管する自動車営業所は棚倉町，同支所は同県白河市と同県田村郡小野新町にある。



1　区間・キロ程および沿革

磐城本線	磐城棚倉・白河	24 km	昭19・12・11開業
	〃　・漆草	10	昭28・2・28
	磐城金山・里白石駅前	15	昭29・8・13
鮫川線	磐城棚倉・赤坂中野	14	昭27・6・20
磐城南線	磐城逆川・植田	66	昭27・8・15
磐城北線	石川新町・小野新町	31	昭27・7・1
	新町役場前・富岡	49	昭28・9・1
	下川内・荒宿	2	昭31・10・15
	上手岡・夜ノ森	4	昭27・9・1

上記のうち磐城逆川・磐城石川間は昭26・3・27開業

2　営業範囲　磐城棚倉・白河間および新町役場前・下川内間は旅客・手小荷物および貨物の取扱を，上手岡・夜ノ森間および下川内・富岡間は小荷物および貨物の取扱をし，その他の区間においては旅客に限り取扱をしている。

3　使　命　磐城棚倉・白河間は戦時中戦力増強のため鉄道を撤去し，この鉄道代行輸送の使命をもって開業した。その後石川・植田間鉄道予定線を先行運転し水郡線と常磐線とを短絡するなど，沿線地方の産業文化の発展助長に寄与している。

4　特　長　沿線には炭鉱が多く磐城金山付近は元金山の全盛時代もあったが，現在は白棚・富士・昭和の三炭鉱がある。

寛政年間時の藩主松平定信が，田園用水としての利用をはかるとともに，衆人清遊の地とした南湖は四季を通じて遊覧に適している。また白河市の南には白河関跡がある。(可野虎男)

いわてかいはつてつどう　岩手開発鉄道

1　事業者の概要

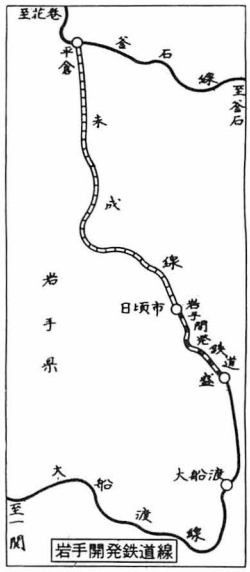
名称　岩手開発鉄道株式会社，本社　岩手県盛岡市内丸，資本金4,000万円，おもな事業　地方鉄道業，従業員42人，保有車両内燃動車2両。

沿革　昭和14・8資本金　250万円の岩手開発鉄道株式会社を設立し，同25・10営業開始した。

2　地方鉄道線

開業線　岩手県下において大船渡線盛駅に連絡し，盛から日頃市に至る延長6.4kmの単線，動力は内燃，軌間は1.067m，旅客および貨物運輸の鉄道である。昭和14・6・7免許を受け，同25・10・21運輸開始した。

未成線　日頃市・平倉間　22.4kmで動力は内燃，軌間は1.067m，昭和14・6・7免許，同15・7・15工事施行認可を受け，同24・7・25工事に着手している。



3　沿線の観光地

長安寺(長安寺駅)，関谷洞窟(日頃市駅)。

4　運輸概況

項目＼年度	昭和28	29	30
旅客輸送人員(千人)	150	141	129
人キロ(千)	717	643	577
貨物輸送トン数(千t)	6	4	4
トンキロ(千)	32	24	24
旅客収入(千円)	1,998	1,973	1,680
貨物収入(〃)	1,060	786	784
運輸雑収(〃)	15	2	9
収入合計(〃)	3,073	2,762	2,473
営業費(〃)	5,363	5,676	7,603
営業利益(〃)	△ 2,290	△ 2,914	△ 5,130
営業係数(%)	174	205	307

(石川　貢)

いわないせん　岩内線　函館本線小沢駅から西方の岩内に至る14.9kmの函館線に属する丙線。

この線は岩内軽便線として大正1・11開通した。(森　悌寿)

いんさつじょう　印刷場　国鉄鉄道管理局の現業機関。そのおもな担当業務は鉄道管理局報，乗車船券類などの印刷・落成検査および配給である。すなわち業務上の命令・注意などを掲載する鉄道管理局報の印刷および発送業務ならびに国鉄で使用される一切の乗車券，乗船券，急行券，寝台券等の印刷から配給までの業務のほか，各種の帳表類，業務資料等の印刷をも行うところである。札幌，仙台，新潟，東京，名古屋，大阪，四国，広島および門司の9鉄道管理局に設置されており，乗車券類の印刷については，印刷場ごとに担当の鉄道管理局および地方自動車事務所が定められている。

印刷場には場長が置かれ，鉄道管理局長の指揮を受けて助役，事務掛，用品掛，技術掛，自動車運転士，技工長，印刷技工，製本技工，用品手，守衛，気かん掛，雑務手および給仕を指揮